

目指せスペシャリスト研究成果の概要

岡山県立倉敷工業高等学校

1. 研究開発課題

「『繊維とファッションのまち倉敷』のさらなる活性化を目指し、地域産業の発展に貢献できるスペシャリストの育成」

2. 具体的な取り組みと成果

①手紡ぎ、手織りショールの製作

老人保健施設で飼育されている羊の毛の刈り取りから製品までの取組

工夫点

- ・草木染めによる染色
- ・電子機械科の協力により、自動手紡ぎ装置を製作（改良中）
- ・電気科の協力により、綿繰機（綿から種子を取り除く装置）を開発中



②暖簾の製作

倉敷商工会議所、商店街と連携した取組
工夫点

- ・聞き取り調査の実施
- ・耐候性顔料の使用
- ・電気科の協力により、スクリーン伸張装置（紗張り装置）を製作



③オリジナルジーンズの製作

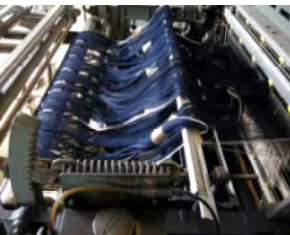
(1)オリジナルデザインジーンズの製作

計画書の作成から最終縫製までの全工程、生徒自身によるオリジナルデザインジーンズの製作

(2)「倉工オリジナルジーンズ」の製作

工夫点

- ・生地によるオリジナル化
- ・機械科の協力により織機を改良
- ・ジーンズ端材によるバッグやチューリップハット（本校オリジナルロゴマーク入り）の製作



- ・工業化学科の協力により、染色廃液の処理方法を確立

3. 販売に向けて

H 2 1 年 4 月

- ・地元児島地区の「児島せんい祭」に展示品として出品
- ・見学者にアンケートの実施（販売に向けての情報収集）

7 月

- ・地元「くらしき朝市 三斎市」で販売
- ・後日、アンケート調査の実施

1 0 月

- ・「児島せんい祭」で倉工オリジナルジーンズを販売
- ・後日、アンケート調査の実施予定



4. まとめ

平成 1 9 年度から本校主催のものづくり展示会への出品と、羊毛マフラーやのれんの贈呈を行っている。更に 2 0 年度には岡山県高校デザイン展への初出品や販売を実施することにより、自分たちの作品が評価される場が増えた。このことは、生徒の変容を測る目的で実施したアンケートの結果、満足度・意欲度ともに自信や達成感が高まっていることがわかった。

生徒達は、外部の期待に応えようとし、デザイン能力、コミュニケーション能力が飛躍的に向上した。同時に、よりよいものを作ろうとする意欲が高まった。

このことが、生徒一人一人の、地域産業の発展に貢献できる自信と自覚を持ったスペシャリストの育成に繋がっている。

今後も、地域と連携しながら、本研究開発事業で培ったものをもとに、更に継続発展させ、地域産業の発展に貢献できるスペシャリストを育成していきたい。

目指せスペシャリスト

私たちの3年間の取り組み

-ファッション技術科での取り組みを中心として-
岡山県立倉敷工業高等学校

1. 手紡ぎ、手織りショールの製作

地元の老人保健施設で飼われている羊の毛を刈り取り、それを加工してショールや膝掛けを製作し、施設の方にお返しするという取り組みをした。

『苦勞・工夫した点』

羊の毛を洗う作業は大変労力がいる、非常にきつかった。糸紡ぎも見ているほど簡単ではなく、本当に根気がいった。



学校のリンゴの木を剪定した際に出た、枝や葉を使い染色した。また、地元岡山県特産のオリーブの枝や葉も染色材料とした。

『感想』

羊の毛刈りは怖かったけど、貴重な体験だった。最初から最後まで自分たちで作業したのは大変だったけど、作品を贈呈したときに「ありがとう、使うのがもったいない」と言って、泣いて喜んでもらえて、大切に使ってほしいと思った。この実習が出来て本当によかった。

2. 暖簾の製作

倉敷商工会議所から紹介していただいた、倉敷本通り商店街の4店舗の暖簾を製作した。

『苦勞・工夫した点』

何度もお店に通い、お店の方とのコミュニケーションをとりながら、気に入っていただけるデザインにするのが大変だった。



染色方法は、今までの授業で学んだ伝統的な技法（藍染、ベンガラ染、板締め、抜染、シルクスクリーン技法等）を用いて製作することを心がけた。贈呈後はアンケートをとり、次年度への作品づくりに活かしている。

『感想』

自分たちが実習で実際に織った布を使用した店舗もあり、3年間で学んだ『織り・染め・縫製』すべての技術を駆使し、地域に貢献することが出来たと思う。自分たちが提案したデザインに何度も修正が入ったり、意思の疎通に苦勞したが、コミュニケーションの大切さ、難しさを実感することが出来た。また、自分たちの製作した作品が地元の商店街の軒先を飾るという経験ができ、とても誇らしく思った。

3. 「倉工オリジナルジーンズ」の製作

経糸（この段階では購入した糸を使用）を織機にかけ、緯糸にむら糸を使用し、デニム地を織り上げた。型を作成し、裁断、縫製し、仕上げ加工をした。（年内には本藍染めのオリジナルデニム生地が完成の予定）

『苦勞・工夫した点』

特殊ミシンを使いこなすことは非常に難しかったが、販売用の作品のため、細かいところにも気をつけて作業した。オリジナルタグ、オリジナルボタンを付け、また、生地の特徴を活かすためにミミを使ったストレートスタイルとバギースタイルの2種類を製作した。



『感想』

初めての販売用のジーンズ製作ということで、本当に売れるのか心配だったが、実際にお客さんが手にとって、気に入って買ってくくださったときには本当にうれしかった。

生地を織るところから縫製まで、すべてを自分たちの手で製作した『倉工オリジナルジーンズ』。倉工でしか出来ない経験が出来たと思う。

「地域に愛される学校」を目指して

～社会人としての基礎力を向上させ社会に貢献できる人材を育成する～

玉野市立玉野商業高等学校
教諭 大島博幸

I 研究のねらい

地元「玉野市」は、造船の町である。昭和 40 年代後半までは人口も増加し、活況を呈していた。しかし、オイルショック以降人口減少に歯止めがかかっていない。そのような状況にある玉野市において、本校は、岡山県唯一の市立全日制商業高校である。地元に着した高等学校として、本校でビジネス教育を学ぶ生徒達に地域を理解させ、地域を体験させ、地域の持てる教育力を活用して「社会人としての基礎力」を向上させ、将来は育ててもらった地域に恩返しができる「社会に貢献できる人材」を育てることを目的としている。

II 研究の内容

1 オリジナル商品開発

地元特産物を生かしたオリジナル商品の開発・販売をとおり、顧客満足とは何かを研究。

2 Web 商店街の開発

地元大学の協力・指導のもと、Web 上に仮想商店街を作り、地元の商店の広報とネット販売を行うこととおし、これからの商業形態を研究。

3 自治体との連携による地域活性化

玉野市内の中心市街地・商店街における実態調査、地元高校生による地域活性化策の提案。

4 まちおこしマガジン

市内の飲食店・隠れた史跡などを取材し、地元の良いところを再発見し、市内外の人に情報を届けることにより情報発信力を養う研究。

5 徳育教育の実践

外部講師による講演や学校全体の取組として道徳心を養う。

6 地元大学生との協働体験

共に働くことにより、勤労観の意識付けを行うとともに、「経営」を学ぶ。

III 研究のまとめ

すべての取組が地域と密着している。この取組を通して社会人としての基礎力を身に付けさせ、社会に貢献できる人材を育てる。

取組のまとめとして、実施した取組を学校設定科目「地域ビジネス」に集約して、今後学校全体のカリキュラムとする。

「地域に愛される学校」を目指して

～「オリジナル商品開発」の取組に参加して～

玉野市立玉野商業高等学校

3 年 難波 美帆

3 年 與田 愛里

I 取組の流れ

1 地域を知る

地元の特産物や観光名所を調べ発表。

2 オリジナル商品の企画

地元の特産物を利用したオリジナル商品の企画。

3 オリジナル商品の試作

自分たちで企画した商品の試作。

4 企画商品のプレゼンテーション

企画した商品のプレゼンテーション。

5 業者による試作

業者の試作品を試食し、自分たちの意見を述べ、改良の依頼。

6 パッケージデザイン

自分たちでパッケージのデザイン。

7 ニューマーケット商談会への参加

小売店のバイヤーに自分たちの商品をプレゼン。

8 百貨店・イベントでの販売実習

百貨店・市内のイベントで販売。

9 実習報告

関係者を招いて、1年間の取組の報告。

II 学んだこと

1 地域の沿革・産業・特産物ことがよくわかった。

2 商品開発に企画段階から参加したり、本物のバイヤー相手にプレゼンテーションをすることにより、創造力・企画力・コミュニケーション力が磨かれた。

3 協力企業・バイヤー・百貨店の販売員・イベントの実行委員・買って頂いたお客様などたくさんの方々のおかげでここまでできた。

III 今後の取組

1 地域特産物を利用した新たな商品の開発

2 知的財産権の学習

3 更なる地域の活性化

平成19～21年度 目指せスペシャリスト研究開発

とくしまけんりつこまつしまにしこうとうがっこう
徳島県立小松島西高等学校

○ 研究開発課題

産業界が求めるスペシャリスト育成のための教育体系プログラムの実現化モデルの構築
～ TOKUSHIMA雪花菜工房(模擬会社)の活動を中心とした人材育成プログラムの推進を通して、地域の活性化に貢献できる将来の「ビジネス」「食」「衣」「福祉」のスペシャリストの育成を目指す研究 ～

○ 研究開発の内容(概要)

TOKUSHIMA雪花菜工房(校内模擬会社)の活動を中心とした次のような取組を通して、地域の活性化に貢献できる将来の「ビジネス」「食」「衣」「福祉」のスペシャリスト育成プログラムを構築する。

- (1) 各分野の専門家の活用
- (2) 発想法の研究
- (3) 大学や企業等と連携し、地域の活性化に寄与する活動
 - ①おからアイスクリーム等、開発商品の販売拡大
 - ②企業等と連携した新商品開発
 - ③Web・Blogを用いた新しい広報技術の研究
 - ④雪花菜工房認証システムの確立
 - ⑤松西アントレプレナーの開催
 - ⑥観光ツアーの企画・開催
 - ⑦オリジナル「ミニカフェ」の運営とライフステージに応じた料理の研究
 - ⑧アパレルCADの活用と徳島の高校生からの衣生活の提案
 - ⑨地域福祉における企画力向上の研究

各取組は、目指すスペシャリストの種類ごとに、商業・食物・生活文化・福祉の各学科が次のように研究を担当し、スペシャリスト育成プログラムを開発する。

商業科では、 TOKUSHIMA 雪花菜工房を中心とした活動のプログラム	⇒ 「ビジネス」のスペシャリスト
食物科では、 オリジナル「ミニカフェ」の運営とライフステージに応じた料理のプログラム	⇒ 「食」のスペシャリスト
生活文化科では、 アパレルCADの活用と徳島の高校生からの衣生活の提案プログラム	⇒ 「衣」(アパレル)のスペシャリスト
福祉科では、 地域福祉における企画力向上のプログラム	⇒ 「福祉」のスペシャリスト

○ 3カ年の研究計画

第1年次	各分野の専門家の活用及び発想法の研究、大学や企業等と連携し地域の活性化に寄与する活動について研究をする。
第2年次	各分野の専門家の活用及び発想法の研究、大学や企業等と連携し地域の活性化に寄与する活動に関する研究について、運営指導委員会等の指導助言・評価を受けながら実践する。
第3年次	各分野の専門家の活用及び発想法の研究、大学や企業等と連携し地域の活性化に寄与する活動に関する研究について、計画を修正し、再実践を行うとともに本研究のまとめをする。

○ 研究開発の成果と課題

- (1) 様々な新しいビジネスプランを考え提供することにより、自ら学び自ら考える力を身に付けることができた。
- (2) 全国の市場を相手にすることにより、グローバルなビジネス感覚を身に付けるとともに、地域経済の活性化に貢献できた。
- (3) ミニカフェや福祉サービス、地域のイベントへの積極的な参加・協力により、地域社会に貢献するとともに、それぞれの分野のスペシャリストの基礎を培うことができた。
- (4) 各学科の専門分野の学習に対して、さらなる意欲の向上、専門性の向上を図ることができた。
- (5) 各学科の有機的な連携・協力により、人と人との関わりや他者の気持ちが理解できるようになったが、今後ともより一層、4学科の連携・協力について工夫、発展させていきたい。
- (6) 地域等との連携を今後ともより一層深めることにより、進路の開拓や、地元経済界の発展に向けた人材育成、さらに、これらの取組を通じて産官学連携の中心的役割を担えるように努めたい。

全国産業教育フェア神奈川大会 生徒発表要旨（徳島県立小松島西高等学校）

1. はじめに

私たちは、目指せスペシャリストの活動として、TOKUSHIMA雪花菜工房を中心としながら、各学科の特徴を活かしたプログラムを計画・実践してきました。例えば、小松島市や小松島商工会議所と連携して企画した「小松島八八狸祭り」のイベントでは、商業科が松西アントレプレナーフェア、食物科がヘルシー弁当やパン・ケーキの販売、生活文化科がTシャツファッションショー、福祉科がウォーキングマップ作りを行うなど、学校の内外で連携・協力し、イベントを盛り上げました。

2. 各学科の実践

商業科が中心となって運営している小松島西高等学校TOKUSHIMA雪花菜工房では、「徳島をPRする」ということを目標に、「地域の特産品を活かした商品の開発」と「徳島ツアー」を行ってきました。特に雪花菜アイスを中心とするオリジナル商品や雪花菜工房認証商品の全国流通、販売のシステム作りを行ってきました。主力商品である雪花菜アイスは、この1年間で販売店舗数約300店舗、販売個数約60,000、経済効果はおよそ4,000万円という数字を示すほどに成長し、本校との連携が始まるまで広域流通を行っていなかった食品加工業者が、徳島県外での広域販売を行うなど新しい流通を築くことができました。この3年間では新商品20アイテムを発売開始、さらにはバスツアーやクルージングツアーを企画・運営しました。

食物科は、『地域住民のQOLの向上に貢献できる「食」のスペシャリスト』を目指し研究を進めてきました。地域住民を対象としたミニカフェを運営し、献立作成や調理技術の向上、接客についても学習を深めました。徳島県は糖尿病での死亡率ワースト1であることから、献立は約600kcalのヘルシーメニューでの提供とし、徳島赤十字病院の管理栄養士よりカロリーダウンの方法を教わり、実践しました。また、ミニカフェには高齢者の姿も多く、高齢者に食べやすい食事の研究として、「ソフト食」に着目しました。食事の柔らかさやまとまりやすさ、喉越しの良さや見た目の美しさにこだわった「ソフト食」をたくさんの人に広めたいと思い、弁当惣菜店と共同開発で「ソフト食」の販売を行っています。食材も地産地消とし、安心安全を心がけています。

生活文化科では、私たち高校生から「衣生活」への発信や提案を目標に研究を重ねてきました。本年度、小松島商工会議所主催「こまつしま八八狸まつり」で「消費者のニーズにあったTシャツ」の提案を実施する機会を得ました。この提案は、昨年度本校商業科の先生よりプレーンストーミング法やKJ法の授業を受け、Tシャツの商品企画を行い、製造し販売するためのプレゼンテーションをファッションショー形式で披露したものです。自分のための服作りではなく人のための服作りを初めて体験し、「人が着る」服作りとはどういうことなのかを理解することができたことが大きな収穫でした。今取り組んでいる介護服や徳島の伝統工芸である阿波藍や阿波しじらを活用した服作りにつなげたいと考えています。

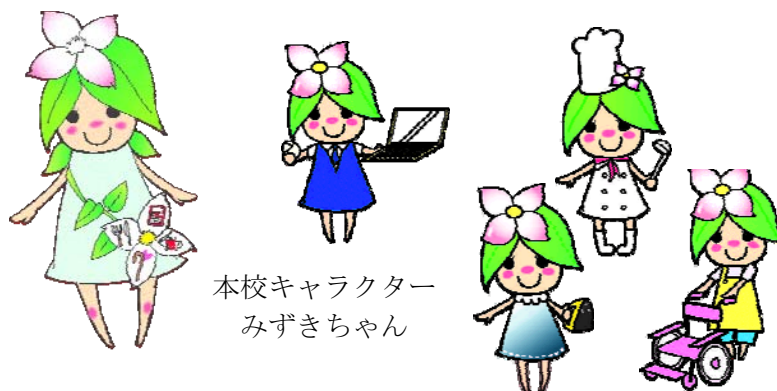
福祉科では、学校所在地の小松島市の住民の方々と協力して、ケーブルテレビに出演し、よりよい介護の啓発、授業を通じて行った糖尿病予防のための運動や食事の研究、近隣特別支援学校との交流などを行いました。現在は、校外施設での実習における事例研究をクラス全員で行い、3年間の学習の集大成としてまとめています。どの活動も施設や地域の方々や校内の商業科、食物科、生活文化科の生徒や先生との交流や手助けがあって少しずつ積み重ねたものですが、まとまると多くの有意義な体験的学習ができていることを実感しました。

3. まとめ

私たちの活動は、

- ・学校全体の活性化
- ・地域経済の活性化
- ・地域住民の健康の維持増進
- ・地域の方々との交流・連携

につながっていると確信しています。



1. はじめに

本校は、沖縄県浦添市に位置し、工業系の機械科、自動車科、電気科、グラフィックアーツ科、および家庭系の服飾デザイン科の5科が設置されている。平成19年度より文部科学省の「目指せスペシャリスト」の研究指定を受け、「地域特性を生かした生活環境作りにおけるスペシャリストの育成」を研究開発課題として、各科独自のテーマを設定し、取り組んできた。

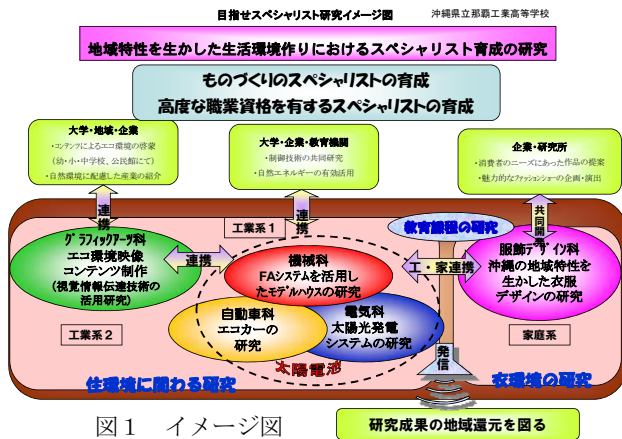


図1 イメージ図

2. 研究概要

(1) 機械科

機械科は「FA システムを活用したモデルハウスの研究」をテーマとし、PLC を用いた農業用ハウスの制御システムの研究を通して、機械制御技術に関するスペシャリストの育成を目指している。研究では実際に農業用ハウスを製作し、センサとアクチュエータを取り付けた PLC による窓開閉や散水の制御プログラムを制作した。

(2) 自動車科

自動車科は、「エコデッカー・エコノカー・ソーラーカー作りの実践」をテーマとし、環境に優しい車づくりを通して、エネルギーを有効活用した省エネ技術の育成している。エコデッカーでは、モータ側とタイヤ側間の動力伝達構造を見直し、最適なギヤ比の選定や風の抵抗を抑えるため、カウリングの製作を行った。この取り組みが功を奏し、2008年度エコデッカーレース全国大会にて、3位入賞を果たした。



図2 エコデッカー

(3) 電気科

電気科は、「太陽光発電システムを利用したモデルハウスの研究」をテーマとし、自然エネルギーで発

電した電力を利用して、モデルハウス内の温度上昇抑制制御の研究を通して、「ものづくり」をベースに計測・制御技術を習得させることで電気技術に関するスペシャリストの育成を目指している。研究では、6畳程度の木造ハウスを製作し、480W のソーラーパネルと400W の風力発電機から発生したエネルギーで、モデルハウス内にミストを噴霧することにより、気化熱で温度を最大7℃程度抑制することができた。

(4) グラフィックアーツ科



図3 モデルハウス

グラフィックアーツ科では、「視聴情報伝達技術の活用研究とエコ環境に優しい地場産業等を紹介する映像コンテンツの効果的な制作方法の研究」をテーマとして、地域の観光や地場産業、環境に優しい製品等のCM制作を通して、効率的に映像コンテンツが制作できるスペシャリストの育成を目指している。また、沖縄の映像(海など)素材や伝統文化を調査・取材し映像や情報を収集するとともに、映像編集技術力の向上に図った。このような取り組みにより、映像関係の素材をデータベース化し、効率的に映像コンテンツが制作できた。

(5) 服飾デザイン科

服飾デザイン科では、「沖縄の地域特性を生かした衣服デザインを研究する」をテーマとし、衣服デザインや縫製技術に関する基本的技能の定着や沖縄の歴史・文化について学習し、魅力的なファッションショーの実践を通して将来にわたっての継続的な学習と意欲を持ったスペシャリストの育成を目指している。研究では沖縄の伝統衣装を研究するとともに、新しいかりゆしウェアのデザインを研究し、かりゆしウェアの作品を製作した。



図4 かりゆしウェア

3. おわりに

本研究を通して、生徒たちはより実践的な技術力を身につけることができた。専門的な知識や技術力を身につけることは大変重要なことであるが、それをどう育成するかが大きな課題である。今後も地域の特性を生かした題材に取り組みせることで知識・技術力・創造力の向上を図っていきたい。

太陽光発電システムを利用したモデルハウスの研究（電気科）

1. はじめに

近年、世界的規模で、地球温暖化問題が取り上げられている。次世代がこの地球上で安心して暮らせるためにも現在から環境問題について取り組んでいく必要があります。沖縄県では昔は風通しの良い涼しい家が造られていたが、現在は鉄筋コンクリート造の家が多く建築されている。鉄筋コンクリート造は、熱がこもりやすく夏は冷房器具が使用されている。そこで、電気科では、「太陽光発電システムを利用したモデルハウスの研究」をテーマとして、ソーラーパネルで発電した電力を活用して、水を霧状に噴霧することで気化熱により屋内の温度を下げる研究を行った。

2. 研究内容

まず、研究のモデルハウスとして、6畳程度の木造の建物を製作した。電気科では、建物を製作する技術と知識がないため建築学科の木造見学会や講習会を行った。その後、大工を講師として、1週間かけてモデルハウスを製作した。モデルハウスは実際の部屋を想定しているため、窓や入り口なども取り付けている。



図1 モデルハウス制作

2年目は、電気科棟屋上に60W×8枚のソーラーパネルと400Wの風力発電機



図2 太陽・風力発電機

1台を設置した。この自然エネルギーで発電した電力をモデルハウス内に供給して自然エネルギーのみを利用して、環境に優しい温度抑制研究を行った。

モデルハウス内には換気扇2台、冷水機を改造した冷却器を1台、ミスト発生器を1台設置して温度を1分ごとに自動計測して温度変化の実験を行い、それぞれ温度を比較して、どの機器を用いた方が温度を抑制できるか検討してきた。すべての機器をOFFにした状態で、室内の温度は40℃を超えた。温度グラフを解析して、昼11:00～16:00の温度が高くなっていることがわかった。そのため、機器の運転時間は11:00～16:00とした。次に換気扇を回した状態では、38℃まで温度が下がった。次に冷水機を11:00

～16:00まで、1時間ごとに運転すると38℃以下まで温度が下がった。冷水機は発電電力が大きいので、今回設置した自然エネルギーでは、発電電力が足りないため、1時間ごとに運転している。最後に30分ごとに3分間ミスト発生器でミストを発生させると33℃まで温度を下げる事が出来た。ミスト発生器はエアークOMPレッサとエアガンを利用してミストを発生させて、水の気化熱により室内の温度を下げています。ミストを噴霧すると湿度が上がってしまい、湿度が85～90%を超えると水が気化できなくなり、水滴が床に落ちてしまう。そのため、連続運転ではなく間隔を置いての運転を行った。



図3 ミスト噴霧

3. おわりに

今回は、30分毎に3分間のミスト噴霧により、温度を抑制することが出来たが、課題として、ミストの噴霧間隔や噴霧時間、噴霧量などの噴霧条件の最適化が必要であることがわかった。今後もモデルハウス内の快適な生活環境を構築するための制御方法に関する研究を継続して行いたい。

3年間の研究を行った感想としては、快適な生活環境を作るためには住宅の材質や風の流れ、効率的なエネルギーの利用方法など、様々な要素を考えなければならず、とても難しい課題だと思った。しかし、研究を通して、木造建築の工法、太陽光・風力発電によるエネルギーの利用、ミスト噴霧の気化熱を利用した室温の制御方法などについて学べてとても良かったと思いました。

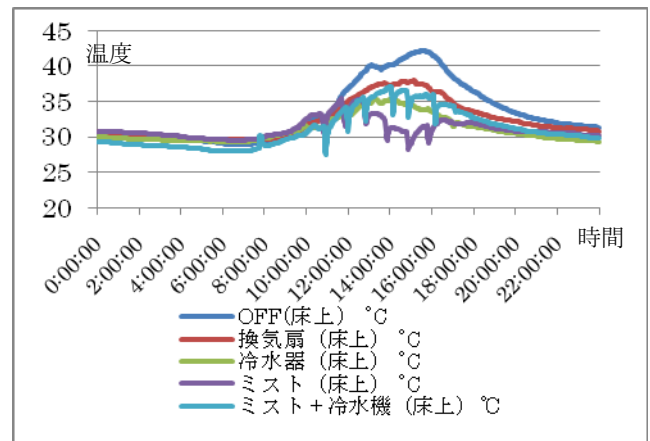
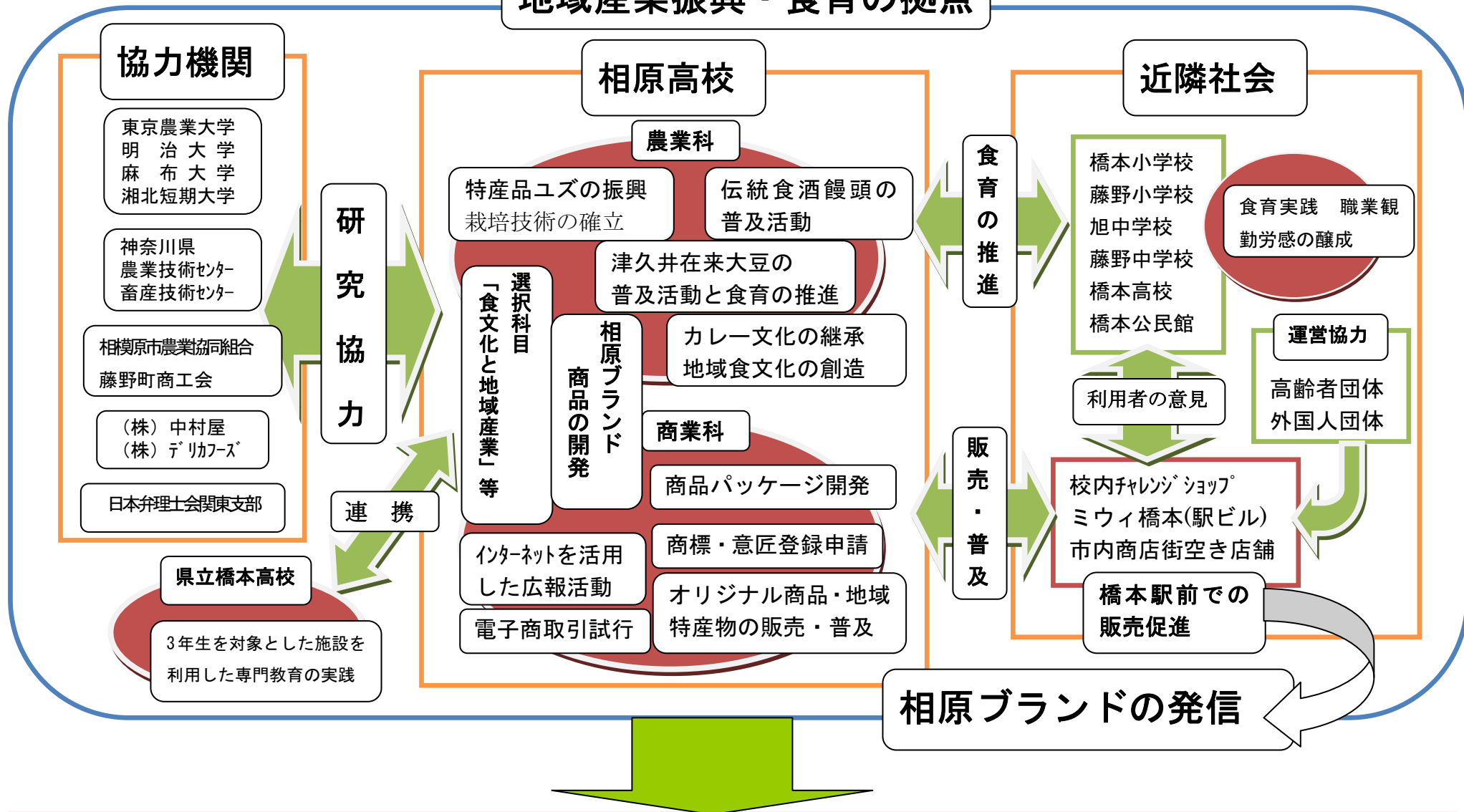


図4 実験結果

オリジナル商品開発・食育を通じた地域産業振興に貢献できるスペシャリストの育成

地域産業振興・食育の拠点



近隣小中学校・高校との連携をとおり、勤労観・職業観の醸成と地域文化を担う人材の育成

畜産科学科（鶏プロジェクト）



食品科学科（酒饅頭・津久井在来大豆・食育・ユズプロジェクト）



商業科（商業科・国際経済科・情報処理科共同「相原夢工房」プロジェクト）



畜産科学科（牛プロジェクト）



環境土木科（ユズプロジェクト）



目指せスペシャリスト実施要項

平成15年5月7日
文部科学大臣決定

1 趣 旨

文部科学省は、専門（職業）教育を主とする学科などで、「将来のスペシャリスト」の育成に係る教育を重点的に実施する高等学校（以下「専門高校等」という。）の教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため、「将来のスペシャリスト」の育成に係る教育の教育課程等に関する研究開発を行う専門高校等を目指せスペシャリストに指定する。

2 目指せスペシャリストの指定

- (1) 目指せスペシャリストの指定を希望する国立、公立又は私立の専門高校等の管理機関（国立の専門高校等にあつては当該学校の附属する大学又は学部の長、公立の専門高校等にあつては当該学校を所管する教育委員会、私立の専門高校等にあつては当該学校を設置する学校法人をいう。以下同じ。）は、それぞれ当該専門高校等を附置する国立大学の学長、都道府県の教育委員会又は知事を経由して（指定都市教育委員会にあつては、直接）、文部科学省に目指せスペシャリスト指定申請書（以下「指定申請書」という。）を提出するものとする。指定申請書には当該学校が目指せスペシャリストの指定に関する同意書を添付するものとする。
- (2) 文部科学省は、指定申請書に記載された研究開発実施計画を審査し、適切と認めるときは当該学校を目指せスペシャリストに指定する。

3 研究開発の実施

目指せスペシャリストにおいては、「将来のスペシャリスト」の育成に係る教育を重点的に実施し、これに関する教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため、現行教育課程の基準の下での教育課程等の改善に関する研究開発のほか、学校教育法施行規則第57条の3（同規則第65条の5第2項で準備する場合を含む。）並びに第55条及び第65条の5第1項で準用する第26条の2に基づき、現行教育課程の基準によらない教育課程を編成し、実施して研究開発を行うことができる。

4 目指せスペシャリストの運営

- (1) 管理機関は、目指せスペシャリストの運営に関し、専門的見地から指導、助言、評価に当たる運営指導委員会を設けるものとする。指導運営委員会は、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、企業等の技術・技能者、関係行政機関の職員等によって組織するものとする。
- (2) 文部科学省は、目指せスペシャリストにおける研究開発の実施状況及び経理処理状況について、実地に調査することができる。

5 指定及び研究開発の期間

目指せスペシャリストの指定期間及び研究開発の委託期間は、原則として3年とする。

6 実績の報告

管理機関は、目指せスペシャリストにおける研究開発の成果・実績を毎年度文部科学省に報告するものとする。

7 経費等

- (1) 文部科学省は、予算の範囲内で、研究開発を行う上で適切と認められる経費を委託費により支出する。
- (2) 文部科学省は、毎年度事業終了後、委託事業完了報告に基づき、研究開発の実施状況及び経理処理状況について実態調査を行う。

8 目指せスペシャリスト企画評価会議

- (1) 「将来のスペシャリスト」の育成に係る教育に関する研究開発の推進に係る企画、研究開発実施計画の審査及び研究開発の実績の評価等を行うため、文部科学省に目指せスペシャリスト企画評価会議を置く。
- (2) 目指せスペシャリスト企画評価会議は、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、企業等の技術・技能者、関係行政機関の職員等をもって構成する。

9 文部科学大臣の是正措置

文部科学大臣は、目指せスペシャリストにおける研究開発の内容が、指定の趣旨に反すると認めるときは、目指せスペシャリスト企画評価会議の意見を聴いて、必要な是正措置を講ずる。

10 その他

この要項に定める事項のほか、本研究開発に係る関係書類の様式、研究開発に係る委託費の事務処理要項等、本研究開発の実施に当たり必要な事項については、別途定める。

目指せスペシャリスト企画評価会議委員名簿

	氏 名	役 職 等
1	岡田 修二	静岡産業大学教授
2	河野 公子	聖徳大学教授
3	鈴木 敏恵	横浜建築研究所取締役 千葉大学特命教授 一級建築士
4	田村 真広	日本社会事業大学准教授
5	豊田 正博	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所准教授
6	松井 立夫	日本工業大学教授
7	山極 隆	玉川大学教授
8	山下 省蔵	拓殖大学教授
9	和田 俊	東京海洋大学教授
10	渡辺 三枝子	立教大学大学院特任教授

平成21年度目指せスペシャリスト指定一覧

No.	都道府県	平成19年度指定 (継続校:19~21年度)			平成20年度指定 (継続校:20~22年度)			平成21年度指定 (新規校:21~23年度)		
		学校種	学校名	教科	学校種	学校名	教科	学校種	学校名	教科
1	北海道	道立	帯広農業高校	農業	道立	厚岸水産高校	水産	道立	札幌東商業高校	商業
2	青森県									
4	宮城県							県立	宮城農業高校	農業
5	秋田県							県立	男鹿海洋高校	水産
6	山形県	県立	山辺高校	家庭・看護・福祉						
7	福島県	県立	勿来工業高校	工業						
8	茨城県									
9	栃木県									
10	群馬県									
11	埼玉県									
12	千葉県							県立	千葉商業高校	商業
13	東京都									
14	神奈川県				県立	相原高校	農業・商業			
15	新潟県				県立	高田農業高校	農業	県立	長岡工業高校	工業
					県立	海洋高校	水産			
16	富山県									
17	石川県	県立	小松商業高校	商業						
18	福井県									
19	山梨県							県立	峡南高校	工業・商業
20	長野県									
21	岐阜県				県立	岐阜各務野高校	情報	県立	大垣桜高校	家庭・福祉
22	静岡県	県立	天竜林業高校	農業・工業・商業						
23	愛知県				県立	桃陵高校	看護・福祉			
24	三重県									
26	京都府	府立	桂高校	農業				府立	海洋高校	水産
27	大阪府							府立	西野田工科高校	工業
								市立	都島工業高校	工業
28	兵庫県				県立	西脇高校	家庭			
30	和歌山県									
32	島根県				県立	江津工業高校	工業			
33	岡山県	市立	玉野商業高校	商業						
		県立	倉敷工業高校	工業						
34	広島県				県立	西条農業高校	農業			
35	山口県				県立	防府商業高校	商業			
36	徳島県	県立	小松島西高校	商業・家庭・福祉	県立	貞光工業高校	工業			
38	愛媛県									
39	高知県									
41	佐賀県									
43	熊本県									
44	大分県									
45	宮崎県									
46	鹿児島県				県立	鹿屋農業高校	農業			
47	沖縄県	県立	那覇工業高校	工業・家庭						
		10校			12校			10校		

…発表対象校